

実証試験要領（経年実証試験）改訂案

今年度から実施されている経年実証試験は、初回の実施のため、実施方法の検討や実施にあたっての情報収集内容を検討しながら実施するため、2年度にわたって実施してきた。

今後は、以下の手順で実施し、試験を単年度で実施する体制を整えるため、試験要領の改訂を行う。

1. 既に実証試験を終えロゴマークが発行されているメーカーを対象に、経年実証試験の意思を、実施の前年度において実証運営機関から確認する。
2. 実施の意思が確認されたメーカーに対し、実証運営機関より必要な計測機器や情報収集のための措置を求める。
3. 従来の実証試験同様に実証機関を公募し、実証機関へ経年実証試験の申請書を提出して、実証機関において試験計画及び実施を行うことで実施する。

以下に、実証試験要領からの抜粋（経年実証試験関連部分）に、改訂案を記述する。

5．経年実証試験の実施

(1) 実施要件

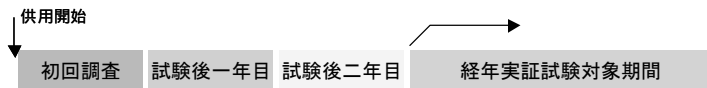
本事業において、実証機関から装置の技術実証を受け、環境省の承認を得た装置について、処理性能向上のため装置を一部改造した場合又は、数年経過後における処理性能の実証のため、技術開発者及び販売店の希望により、経年実証試験を受けることができる。

経年実証試験の実施における対象技術は、次の要件を全て満たす場合のみとする。

1. 初回の実証試験後において、指摘事項に対する改良のうち、処理性能等に係る根本的な改良がされていないこと。
2. 経年的な影響を確認するため初回の実証試験終了後から2年以上経過した技術とする。（詳細は、図6参照）
3. 対象技術は、実証試験終了後に利用状況や維持管理の影響を多分に受けており、試験結果の検証にはこれらの状況を事前に把握することが必要であることから、~~経年実証試験実施年度の前年において、施設管理者等から利用状況等をヒアリング等で確認（以下、「予備調査」という）~~ができること。

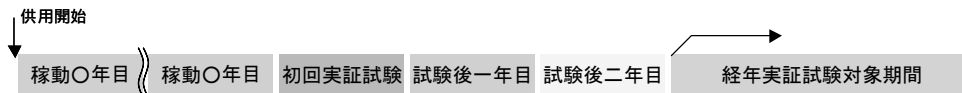
~~共通事項: 経年調査実施の前年度において、予備調査として、初回調査以降の情報収集を行なうものとする。~~

A: 初回実証試験時「新規設置」の場合



経年実証試験を実施できる対象技術は、初回調査を含む稼働後3年以上経過している技術に対して実施することができる。

B: 初回実証試験時「既設施設」の場合



経年実証試験を実施できる技術は、実際の設置時期に関わらず、初回調査を基点として3年以上経過している技術に対して実施することができる。

C: 初回実証試験からの経過年数が多い場合



経年実証試験は、初回調査以降3年以上経過した技術であれば、経過年数に関わらず実施することができる。

初回調査：実証試験実施（完了）年を示す。

図6： 経年実証試験の実施対象時期に関する考え方

(2) 実施フロー

~~＜試験実施前年度＞~~

- ~~・ 実証運営機関は、実施年度の前年において、過去に実証を受けたメーカー等に対して、経年実証試験の希望の有無を聴取し、希望がある場合は、予備調査申請書（資料5）の提出を求める。~~
- ・ 経年実証試験の申請は、実証申請書様式の経年実証試験向けの項目に必要な事項を記入し、実証機関へ申請を行う。
- ・ 予備調査申請書の提出を受けた経年試験を行う実証運営機関はWGに対して、経年実証試験の対象技術に該当するか否かを確認審査し、その結果を申請者に通知する。
- ・ 審査の際、実証運営機関は、実証装置の管理者等に対して「予備調査」を実施する。~~この調査では、~~以下の事項を主な視点とし、書面及びヒアリングによる維持管理等に関する確認を行なう。
 - ・ 経年的な維持管理状況（ランニングコストを含む）に関する確認
 - ・ 利用負荷（利用者数等）の状況の確認
 - ・ 過去の実証試験において、技術実証委員会が指摘した改良点などの確認

~~＜実施年度＞~~

- ・ 実証対象技術の審査、実証試験準備及び実証試験方法に準じ、試験を実施する。
- ・ 実証機関は、技術実証委員会において、初回の実証試験結果報告書を参考にし試験計画を作成する際、試料採取回数は、技術実証委員会予備調査の検討結果をもとに判断することとし、原則1回とする。

当ページの内容は、すべて削除。

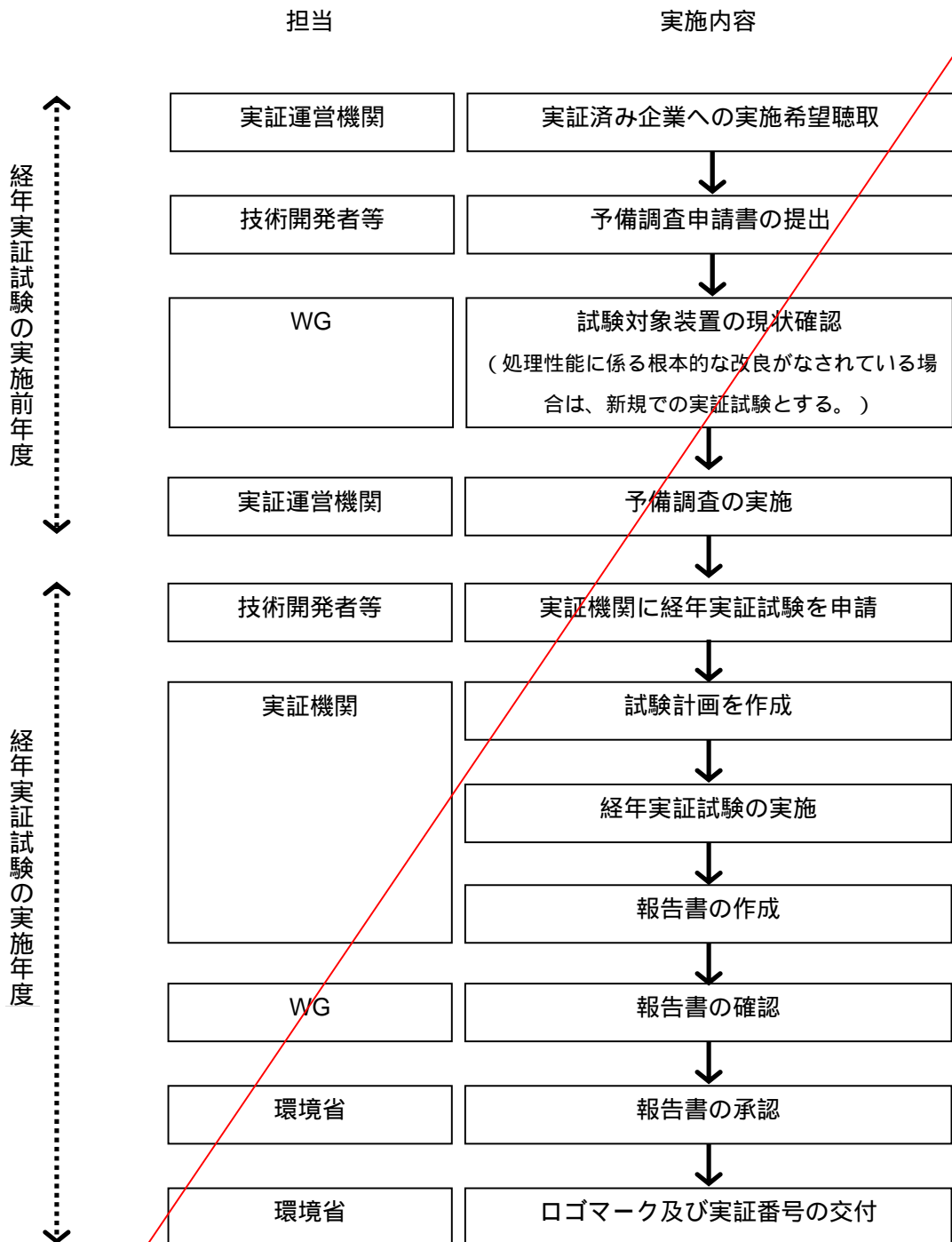


図7：経年実証試験の実施フロー図

資料１．自然地域トイレし尿処理技術実証申請書

１．申請者

企業名			印
住所	〒		
連絡先	TEL	FAX	
E-mail			
担当者名			
所属			

２．申請装置概要

項目	記入欄		
装置名称			
し尿処理方式	1.水使用 2.水不要	1.生物処理 2.物理処理 3.化学処理	特色（記入）
型番			
製造企業名			
連絡先	担当者：		
	TEL	FAX	
	E-mail：		
価格（円）	（システム一式の費用を記載）		
設置条件	水：（ 十分な量が必要・ 初期水のみで可（ t・ 不要 ） 補充水量（ t月）		
	電気：（ 必要（ kWh/d 不要 ）		
	道路：（ 必要 ・ 不要 ）		
使用燃料	燃料の種類（ ）、消費量（ L・kg・Nm ³ /月）		
使用資材	資材の種類（ ）、消費量（ L・kg・Nm ³ /月）		
温度	適正稼動が可能な気温（ ）		

装置タイプ	トイレと処理装置が(一体型 ・ 隣接型)
サイズ	一体型の場合：(w mm × d mm × h mm)
	隣設型の場合：(w mm × d mm × h mm) (処理装置のみ)
重量	一体型の場合：(t) 隣設型の場合：(t (処理装置のみ))
処理能力	平常時 (人回/日) (L/日) 利用集中時 (人回/日) (L/日) し尿原単位を (L/回と想定して算定) 処理能力提示値 () 例：BOD mg/L以下
最終処分方法	
保証期間	(年)
償却期間	(年)
ランニングコスト	(円/月)
納入実績	(ヲ所)
その他 (特記事項)	

経年実証試験の場合、以下にも記入

項目	記入欄
実証試験 実施年度	
施設管理者名	
実証装置の改良の状態 (実証試験後の改良の状況をできるだけ詳細にお書きください(別添可))	改良を行った時期(年 月 日) <u>改良実施内容</u>

以下は、申請の意思確認時点で実証運営機関において確認を行う

以下の各項目を確認し、当てはまるものに○を付けてください。

<u>実証試験後において、指摘事項に対する改良のうち、処理性能等に係る根本的な改良がされていない</u>	はい/いいえ
<u>初回の実証試験終了後から2年以上経過している</u>	はい/いいえ
<u>実施年度の前年(予備調査申請年度)において、施設管理者等からのヒアリング等により利用状況等に関する確認ができる</u>	はい/いいえ

本申請書に添付する書類一覧表（実証試験要領「 ． 2 ． 申請資料の作成方法」を参照）

No	項目	
(1)	実証試験地（候補）に関する情報	1) 所在地
		2) 自然環境条件
		3) トイレ設置に必要なインフラ整備条件
		4) 利用条件
(2)	装置に関する情報	1) 設計における基本的考え方
		2) 構造・機能説明書
		3) 処理性能
		4) 標準設計図
		5) 設置実績資料
		6) 技術性能データ
		7) 維持管理要領書
		8) 設置条件
(3)	その他	1) 会社概要
		2) 参考資料

当ページの内容は、すべて削除。

資料5 . 予備調査申請書

1. 申請者

企業名	印	
住所	〒	
連絡先	TEL	FAX
E-mail		
担当者名(所属)		

2. 申請装置概要

項目	記入欄			
実証番号				
装置名・技術名・型番等				
実証試験 実施年度				
し尿処理方式 (新方式名で記述)	1.水の有 無	2.前処理	3.処理方式	4.特色
	使用/ 不要	有/無	(a) 生物処理方式 (b) 物理処理方式 (c) 化学処理方式	
施設管理者名				
連絡先	〒 tel	fax		
設置場所住所				
山岳・山域名等(標高等)				
トイレ供用開始	年 月 日			
実証装置の改良の状態 (実証試験後の改良の状 況をできるだけ詳細にお書 きください(別添可))	改良を行った時期(年 月 日) 実施内容			

以下の各項目を確認し、当てはまるものに○を付けてください。

実証試験後において、指摘事項に対する改良のうち、処理性能等に係る根本的な改良がされていない	はい/いいえ
初回の実証試験終了後から2年以上経過している	はい/いいえ
実施年度の前年(予備調査申請年度)において、施設管理者等からのヒアリング等により利用状況等に関する確認ができる	はい/いいえ